

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		外部評価が1階フロアーにあり、全く見ていない事や、職員の異動や暮らしぶり等を報告してほしいとご家族アンケートで指摘を受けた。来所されないご家族に対し、電話で説明を行っていた事、運営会議に参加されない人に説明や文書を郵送していない事に課題がある。	①自己評価と外部評価を来所者に必ず見ってもらうようにする。 ②市外のご家族や面会されないご家族に電話でなく出来る限り、文書でお知らせする。	①自己評価、外部評価をグループホームの面会簿と一緒に場所に置き、お茶と一緒に差し出し「良かったら見て下さい」と声かけする。 ②運営推進会議の案内文や暮らしぶり等、特に市外や県外のご家族に請求書と一緒に文書で報告する。	10ヶ月
2	33	家族には、契約時や重度化になった時点で、主治医と家族、管理者で確認しながら、終末期の話し合いを段階的に行っているが、文書による契約は行っていない。	重度化、終末期の契約書を作成し、家族に説明と共に、契約を取り交わす。	①重度化、終末期に向けた指針を作成する。 ②身元引受人に説明を行い契約を取り交わす。来所できない家族には、郵送する。	6ヶ月
3	49	認知症の進行と身体機能低下(拘縮や筋力低下)で介護が重度化している。楽しみごとの支援や外出の機会が少なかった。	認知症の周辺症状が減り、落ち着いた日常生活(笑顔がある)ができるように支援する。	①入浴がない(火、木、土、日)曜日に担当者と時間を決めて、担当者責任でレクリエーション、屋外活動を行う。	10ヶ月
4	36	一人ひとりの人格を尊重した、言葉使いや対応の配慮が足りない。	言葉使い、声の大きさが利用者の尊厳、羞恥心を損なわない対応ができる。	①プライバシーや羞恥心を損ねない言葉かけや対応の介助をする。 ②敬語、思いやりの言葉で対応する。 ③認知症の勉強会(研修)等に積極的に参加する。	10ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。